

「豊かな自然環境」  
—生物部の活動報告—

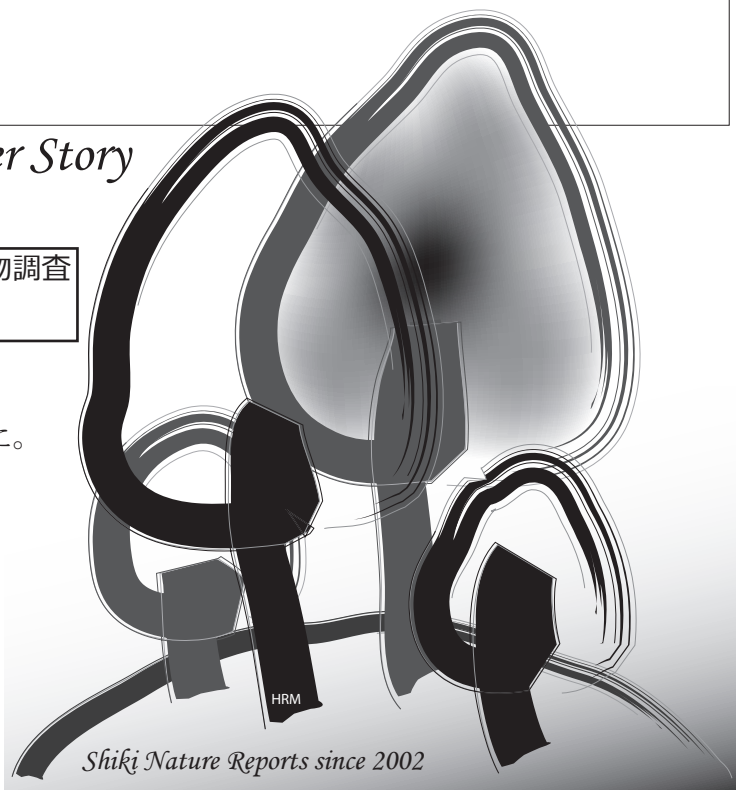
## Cover Story

今回は生物部キャプテン、3A 仁村君が校内の動植物調査について寄稿してくれました。

生物部キャプテンの仁村です。部を代表し、  
本誌に記事を掲載させて戴けることとなりました。

当部では、昨年度より「校内の動植物リスト作り」を行っています。校内の自然環境の現状を把握し、将来の保護活動につなげるためです。現時点で、次の種数が確認されています。

- ・昆虫類 315種
- ・その他節足動物（クモ等） 50種
- ・哺乳類 6種
- ・両生類、爬虫類 8種
- ・鳥類 24種 ほか
- 動物種合計：424種
- 埼玉県レッドリスト記載種：21種



今までも多くの人が本校の「豊かな自然環境」について語ってきましたが、それを分かりやすく表すようなデータを得られたことがとても喜ばしいです。鳥類やトンボ類をはじめ、埼玉県や国のレッドリストに載っている絶滅危惧種も数多く確認されています。

今年度は知識の豊富な1年生も入部し、リストの種数は日々増え続けています。また現在、主要な種類をピックアップした「志木高の動物図鑑」の編纂も行っています。

我々は現在、志木高が環境省の「自然共生サイト」に認定されることを目指しています。

自然共生サイトは「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」が認定されるもので、現在全国で328カ所、県内では9カ所が認定されています。

そして昨年度、慶應義塾のキャンパスで初めて、湘南藤沢キャンパス（SFC）が自然共生サイトに認定されました。敷地内の豊かな自然環境と、最新技術も取り入れた先進的な取り組みを行ってきたことが評価されたものです。また、日吉キャンパスでもサイト認定に向けた動きが始まっているとのこと。



自然が売りの志木高が、これに遅れを取るわけにはいきません。そこで現在、先駆者であるSFCの環境情報学部の研究室と連絡を取り、来年の春に自然共生サイト認定の申請を行うことを目標に、取り組みを始めています。具体的には、森・水辺（池、水田）・草原（広場、農園）を核に、校内全体の自然環境にコンセプトを持たせて改善・整備するということです。また、先述した調査をはじめ、モニタリングの継続・強化も行っていきます。

このかけがえのない自然を守るため、今後も生物部の活動に理解と応援をいただきたいです。

## ⇐制作中の「志木高動物図鑑」の抜粋

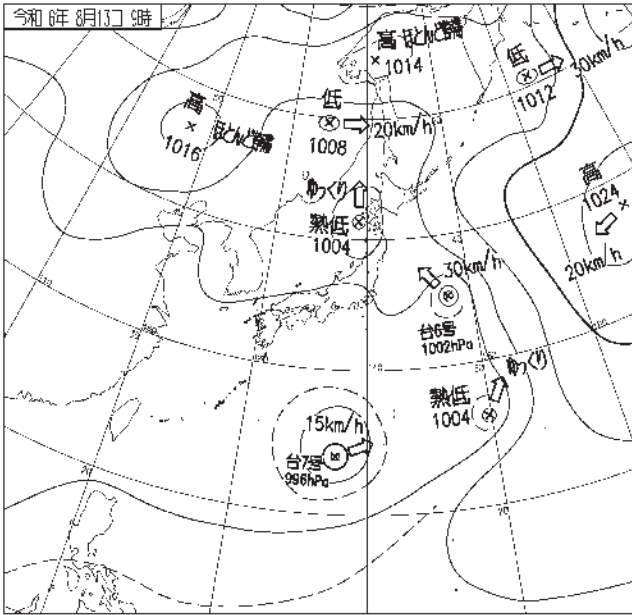
(3A 仁村高士郎)



2025年は梅雨らしい雨もなく6月後半から猛暑が続いています。例年ならオホーツク海に高気圧が停滞し、東日本には北東の風が吹き肌寒い日々（梅雨寒）があるものですが、今年は偏西風がずっと北に行ってしまうオホーツク海の涼しい空気がやってきません。その代わりに早くも夏の太平洋高気圧が張り出していますが、これもまたずいぶん北東に偏っています。このパターンは昨年8月中旬や、少し前になりますが2016年8月にもありました。※このあたりのしくみを詳しく知りたい人は3年生の自由選択地学で！

太平洋高気圧が北に偏る夏は台風がたくさんやってきます。台風は高気圧の外に押し出されますが、いま日本の南はぽっかりと気団の空白域になっています。加えて7月はまだまだ西からのアジアモンスーンが強く、暖かく湿った空気を運んできます。北に偏った太平洋高気圧からの東風とアジアモンスーンからの南西風によって、日本の南の空白域では反時計回りの渦「モンスーンジャイア」ができます。この中では小さな台風の種が成長しやすい場になっています。さらに今年は西日本でさっさと梅雨が明け、日本の沿岸の広い範囲で海面水温が早くも30℃を超えています。

今年は6月に入ってから台風1号ができ8年ぶりの遅いスタートでした。しかし今は日本のすぐ近くでも台風ができる準備ができています。夏休みの間に台風はいくつやってくるのでしょうか。



2024年8月13日の天気図



2025年7月6日の気象衛星画像tenki.jp（日本気象協会）より

(Higuchi)

Haiku

【夏の句】

七分まで開く校門さみだるる

空梅雨の胡瓜の如き亀の首

尺蠖の風にそよいでるたりけり

大なる気球の如き夏木かな

木洩日をプール帰りの五六人

前北かおる

硬式庭球場から野球場に向かう道の途中、庭球場からすぐ右手を見ると葉に光沢のある人の背丈ほどの植物の群落がある。「ヤブミョウガ」という。葉の色、形、光沢などがミョウガに似ているために名付けられたようだが、ショウガ科（ミョウガはこれ）ではなくツクサ科に属する。本校では初夏に花茎が伸び、その上段に直径5〜6mmほどの小さな白い花が咲かせる。花は、段々に集まって咲いているように見えるので趣深い。実は直径5mmほどのきれいな青藍色なので、観賞用に植栽される。因みにこの青はメタリックにも見える『構造色』である。食用にすることはほとんどないが、開いていない新芽を塩茹でにすることはあるらしい。また、古来中国では、地下茎を頭痛薬として処方していたらしい。

[2025年4月～2025年7月までの開花情報]

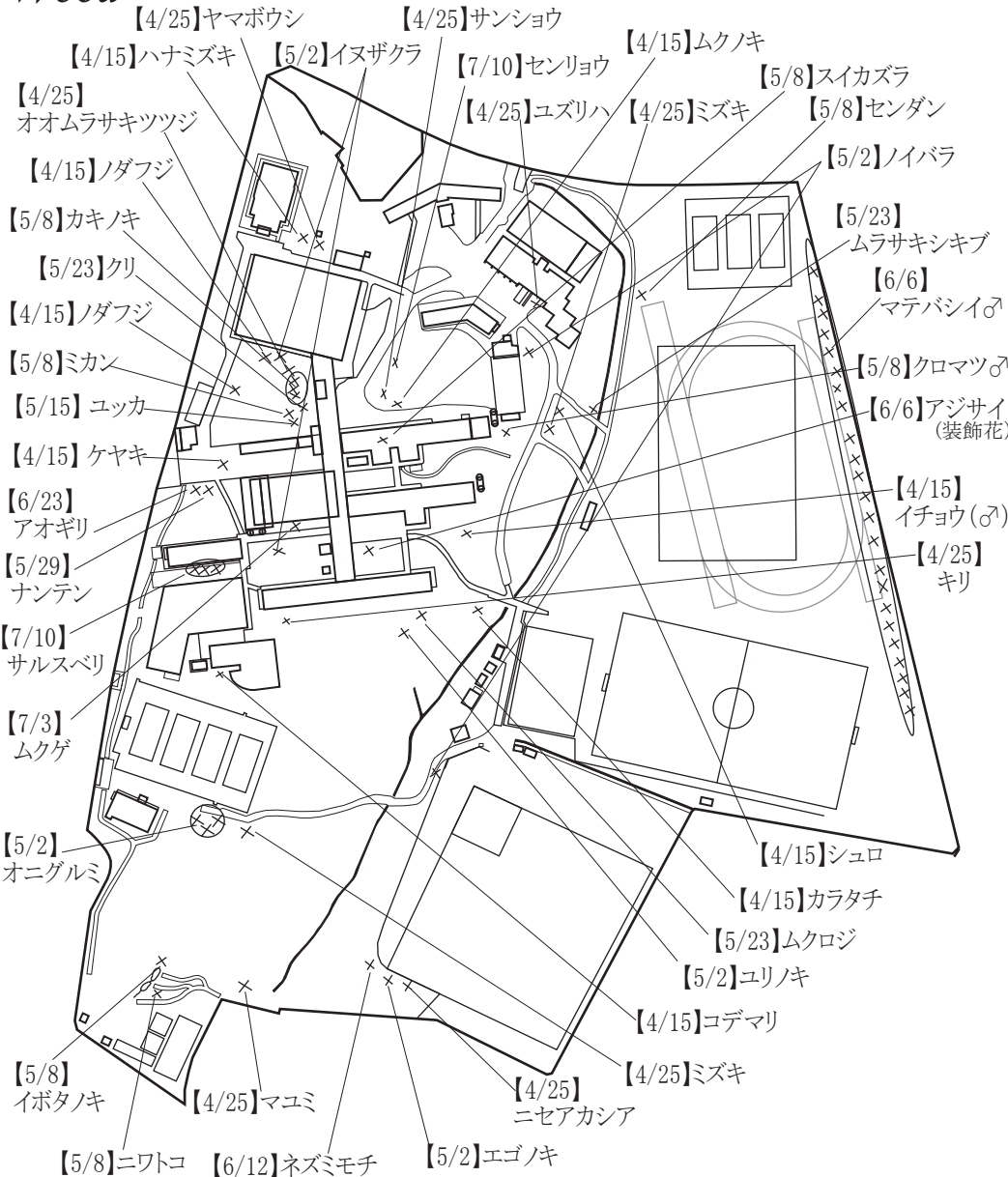
Grass

- 15.Apr カラシナ, シバクサ
- 25.Apr カモジグサ, ウマゴヤシ, ヒメジョオン, ナガミヒナゲシ, ヤブジラミ, ヒルガオ, ニオイスマレ, アメリカフウロ, ギンギシ, ハゴロモジャスミン, シロツメクサ, オオアマナ, ジュウニヒトエ, カラスビジャク, ツボミオオバコ
- 2. Mar オオバコ, キツネアザミ, チガヤ, ムギクサ, アカバナユウゲショウ, イボミキンボウゲ, ニワゼキショウ, ツルウメモドキ
- 8. Mar トキワツユクサ, スイレン, ノビル, ドクダミ, オオジシバリ, ヤセウツボ
- 23. Mar ハナヤエムグラ, ヨウシュヤマゴボウ, ツユクサ
- 29. Mar ハキダメギク, ツルマンネングサ, ツメクサ
- 6. Jun ノブドウ, ネジバナ, ワルナスビ
- 12. Jun チヂミザサ, トクリマメ, ヤブガラシ, ツメクサ, アメリカセンダングサ
- 23. Jun ハエドクソウ, ヤブミョウガ, ナルコビエ, タケネグサ
- 3. Jul イヌホオズキ, アメリカオニアザミ, ジャノヒゲ, シオデ, イグサ, ヒメガマ
- 10. Jul ヘクソカズラ, オヒシバ, メヒシバ, ノボロギク, ヤマノイモ, セリ



ヤブミョウガ  
ツクサ科ヤブミョウガ属

Wood



(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

|         |                |                   |
|---------|----------------|-------------------|
| 執筆・担当区分 | 天文・気象          | 樋口 聡 (Higuchi)    |
|         | 歴史・美術 (博物館)    | 原 浩史 (Hara)       |
|         | 俳句             | 前北 馨 (Maekita)    |
|         | 日本文化 (香道)      | 井之浦 茉里 (Inoura)   |
|         | 日本文化 (茶道)      | 池田 卓也 (Ikeda)     |
|         | 植物・地質 他[&発行責任] | 宮橋 裕司 (Miyahashi) |
|         | 植物画・編集         | 荒巻 知子 (Aramaki)   |